

カテナ式は今回でバージョン5に改装されたが、その目的はふたつだ。腱鞘炎対策と、編集機能強化である。

- 1 腱鞘炎対策に、左手部を大きく変えた。変更部分のキーで打てる言葉として「裸足の絡み」バージョンと命名。左下のHから時計回りで打っていきること覚えてほしい。
- 2 「英数」かな」キーをCtrlキーにバインドし、編集用のショートカットを様々に用意、簡単な編集なら右手一本で出来るようにした。

刀は、むき出しのゼロ戦のような脆さから、しなやかな強さも手に入れた。

カテナ式をはじめて使う人は、このマニュアルを最初から読んで頂きたい。
すでに使っている人は、以下の「NEW」の部分だけ読めばOK！

もくじ

1	使い方		3
	ホームポジション	↑NEW！	
	中央の制御系と変換		5
	右手の各キー		6
	左手の各キー	↑NEW！	
	記号系		8
	外来発音系		
	ショートカットと編集	↑NEW！	
			9
2	カテナ式の速さの秘密		13
3	カテナ式の強さの秘密	↑NEW！	
			16
4	カテナ式のダウンロード及び初期設定	↑NEW！	
			18

1 使い方

カタナ式をダウンロードしたら（18ページ以降参照）、ワードなどを立ち上げ、文章を書ける状態にしよう。縦書き専用なので「縦書きモード」に設定すること（横書きではカーソル系挙動が変わる。横書き用のカタナ横式、および縦横両対応版は後日リリース予定）。なおカタナ式はフリーウェア DvorakJ 上で動いているが、たまに挙動が怪しくなったら、タスクバーから呼びだし再起動させると大体治る。

カタナ式配列は Windows 専用である。実装が Win 専用の DvorakJ 上のためだ。Mac には Karabiner などがあるが、作者は AutoHotkey を使いこなすプログラマーではないので、実装してくれる強者を募集中だ。

起動と終了、中断と再開

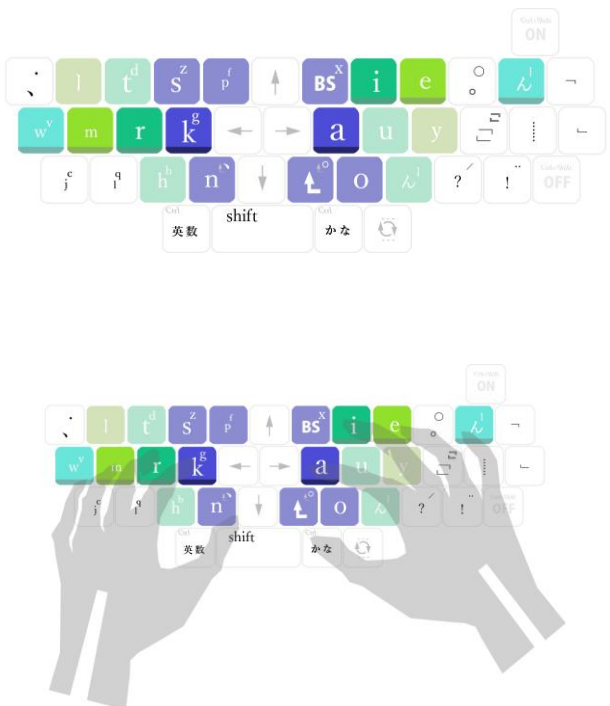
カタナ式は、マシンの起動に合わせて自動的に起動する（初期設定）。タスクバーに最小化された DvorakJ のアイコンがあれば、カタナ式が使える。

終了はそのアイコンをクリックし、メニューから選ぶ。

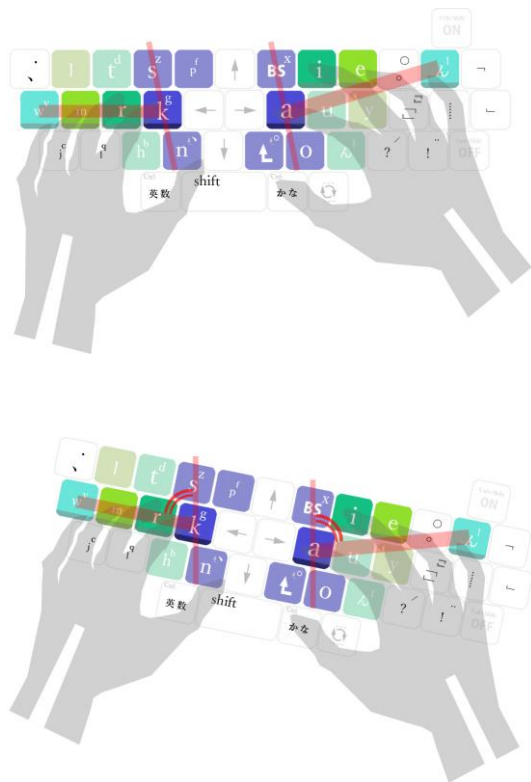
カタナ式の中断（元の配列に一時的に戻す）は **Ctrl+Shift+_**（アンダースコア）、再開は **Ctrl+Shift+~**。キーボードの右下と右上と覚えてほしい。

ホームポジション NEW！

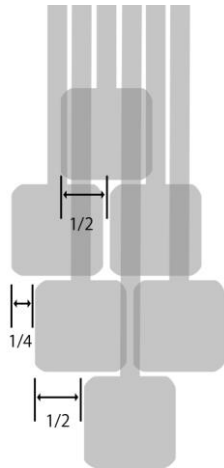
カタナ式 v5 「裸足の絡み」の、新しいホームポジションをご覧いただきたい。
ざっくり言うと、左手が中段一段（NEW！）、右手は外に開いた形をしている。



従来型のキーボード（以下 QWERTY）の、人差し指の基準位置 F J は、カタナ式では K と A に相当する。なぜ変な形に構えるのか？ それは、QWERTY のキー配置が、「左斜めに傾いてずれている」からである。「左に傾いた角度を正面にして、両手をハの字に開いた形」がホームポジションなのである。まっすぐな基準線からは、左右の開き角度がほぼ同じであることが図からわかるだろう。



なぜ QWERTY がこのようなキー配置になったか、複雑な経緯までここでは深入りしない。しかし偶然これになったまま、合理的かどうか検証されずにスタンダードになったという結果だけ述べておく。キーのずれの原因は何か？ 上図を見ていただきたい。タイプ



ライターのキーについたハンマー棒（テコの原理で、活字を押して接触させる）を、うまく並べるための工夫なのだ。「左」への傾きは、原稿を右に置き、それを見ながらタイプしていたことの名残だそうである。え？ デジタル基盤なのにまだそれを守ってる

の？ 馬鹿？

私は新しいキーボードをハード的に開発できる立場にないので、「現状の一般的な市販キーボードのベストな使い方」を探るしかない（なお基準線自体を見直したエルゴノミクスキーボードなどでは、カタナ式は逆に窮屈になる。各自改造のことー）。

ちなみに右手で、小指の「ん」だけ離れているのには理由がある。カタナ式の原則は、「最初の音（母音の A と子音の K）は人差し指、最後の音（「ん」は母音扱い、子音は W）は小指」である。右手小指は「ん」担当だが、「ん」はローマ字入力では必ず母音のあとに来る。「母音＋ん」を楽にするため、こうなったのだ。

ホームポジション自体は変わった形だが、指の運指範囲は QWERTY キーボードと同じ

なので、ブラインドタッチ運指の参考にしたい。

中央の制御系と変換

まずはスペースキーの横にある「英数」「かな」から（元無変換キー、変換キー）。Macと同様、「英数」で直接入力モード（英語入力、IME-OFF）、「かな」で全角ひらがな入力モード（日本語入力、IME-ON）になる。

初期設定では、「かな」でカタナ式配列、「英数」で QWERTY 配列である。カタナ式が「日本語のローマ字出現頻度」に応じて配列されていて、英語入力は遅いからだ。「カタナ式は日本語特化、英語は QWERTY」と覚えていただきたい（なお DvorakJ では、英語配列を別に設定する、たとえば英語特化の Dvorak や Colemak などに変更できる）。

右手母音ブロック、左手子音ブロックを左右にわけるように、中央部に十字型カーソルキー、エンター、BS がある。デフォルト通りだが、基本操作を確認しておこう。



スペース	変換開始
→	前候補
←、スペース	次候補
↑↓	文節を移動
シフト↑↓	文節を一字ずつ伸ばし、縮め
エンター	確定
カーソルキー	カーソルの移動
シフトカーソル	領域選択 (Ctrl+X, C、再変換などに使う)
BS	一字削除、領域を削除
エンター	段落改行

「変換作業に必要なキーが、ホームポジションに隣接する」ことが、カタナ式の第一の特徴である。ために、A、K、Iあたりの文字で適当に打ち変換してみたまえ。右手をはるか遠く出張させることなく変換確定できることが実感できる。

なお、スペースキーは「押しっぱなしでシフトキーになる」ように設定した (Sands という機能を利用)。編集時、領域選択に活用されたい。

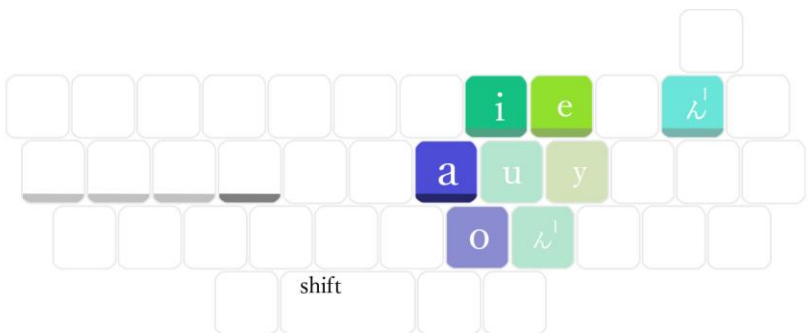
右手の各キー

カタナ式の特徴の第二は、右手左手に母音子音をふりわけた独特の配置である。まず右手部分を見ていく。

最も根本的な母音Aは、利き手の人差し指で（以下すべて右利き前提）。右手人差し指は、他にエンターやBSを担当する最重要指。これを中心に、5母音が使用頻度を考慮されて配置されている。

ちなみに最初はA I、O Uの二重母音を練習するのが速さの実感にオススメだ。

Yの位置に工夫がある。母音は漢字や熟語内で、頻繁に二重母音化、拗音化する。とくに頻出するのが「O U」「Y O U」「A I」「E I」「Y U U」「Y U」だ（最高、開放、社会、象徴、永遠、成功、周到、相当、構造、最低、主張、吸収などなど）。これらが打ちやすいように配列されているのが、カタナ式の母音部だ。



次の工夫は「ん」だ。ローマ字入力では「ん」は必ず母音のあとに来るので、母音から連続して打ちやすい位置にある。カタナ式は「最初の音K Aは人差し指、最後の音W んは小指」という原則がある。A I Eからは小指の「ん」が打ちやすいが、O Uから打ちやすい、第二「ん」も用意してある。運指によってはAからも打つだろう。都度使い分けていただきたい。

同様に、長音「ー」も必ず母音のあとに来るため、「ん」のシフトとした（シフトが時に面倒な時もあるので、今バージョンから子音部にも「ー」を用意した）。

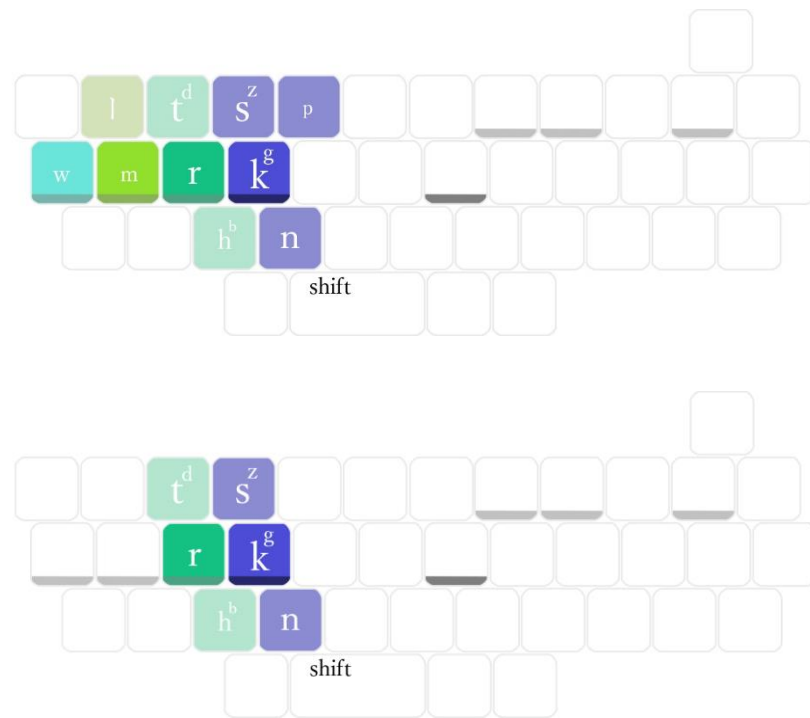
左手の各キー

NEW!

左手は子音担当である。

日本語の子音は全部で14ある（K G S Z T D N H B P M Y R W）。まずシフト清音で濁音とする（シフトK S T H 〓 G Z D B。濁音シフトという。これはSandsとの組み合わせで、スペースキーを使うのがメイン）。Yが右手になったことで子音は一つ減り、小指にWを

固定するので、覚えるべきキーは14—4—2—8キーである。そのうちマイナーなMPを除いた6キーを、主要子音キーと呼ぶ。これと母音部（とシフト用のスペースキー）だけで日本語の93%を打てるので、まずはこれらを優先的に覚えてほしい。



また、スペースキーをシフト代わりにする「濁音シフト」であるが、左親指で打つのがオススメだ。右親指は本来の「変換」を入力するときに、左右の役割を分けておくと混乱しない。なお母音にはシフトがないため、シフト押っぱなしのいわゆる「連続シフト」が可能である（たとえば「同時代」はスペース押しっぱなしでよい。残念ながら「たどたどしい」は押したり離したりと忙しい）。

カタナ式は左右交互打鍵方式だ。

左手が子音を打っている間に、右手は次の母音に動き、右手が母音を打つ間に今度は左手が……とリズムカルな流れになれば、左右交互打鍵に慣れてきたということだ。ただ、ただ、と二回のリズムが響くようになれば、手が出来て来た証拠である（母音、二重母音、拗音などが出現する為、必ずしもそうならないが）。

記号系

長音「ー」は、シフト「ん」(右手部)、または単打で子音部に。
(以前のバージョンからある、「AIE」「AUY」「OUE」「OUE」「Oん?」の三つ同時押し入力はまだ存在するが、三つ同時押しがキーボードによって認識しづらいときがあるので注意)

撥音「っ」は、子音ふたつのデフォ。(「っ」キーはあまり使わないので廃止)

句読点は単打キーがWと「ん」の近くに。
実質使うのは下段の「句読点+確定」キーである(シフトN、シフトエンター)。文を入力、変換後、確定ならエンターの代わりに「句読点+確定」キーで「句読点を打ちかつ確定」して次へいけるので、僕はもうこれしか使っていない。

また、物語の入力に使う記号を優先的に配置してある。

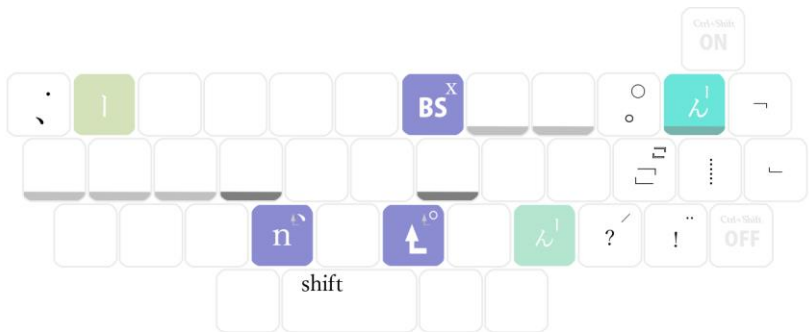
文
「」キー ひとつのキーで「カギカッコ開く」「閉じる」「一

字戻る」を。

……キー ひとつのキーで「三点リーダー二文字」を。

○キー シフト「。」に、脚本における「シーン柱記号」を。

あとは都度覚えていけばいい。



※ QWERTY にはあって、カタナ式にはない全角記号 ><@:;* ,

これらは縦書きの物語入力では使わないと判断した。使いたいなら読みから変換するか、カタナ式をオフしてデフォルトのIMEから入力すること。

外来発音系

日本語にはない音だが、外来音を表記するための子音、F V J X がそれぞれある。L Q C もローマ字では使わないが、全角アルファベット入力用に配置(今バージョンからアル

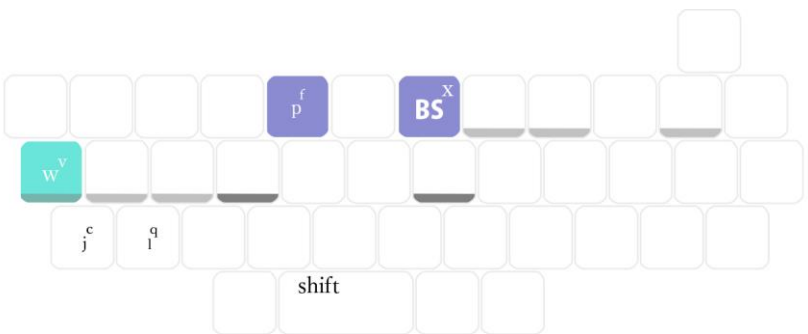
ファベット26文字そろった。

Xは特に母音との組み合わせが多いので、右手サイド（シフトBS）に配置。あとに示す音以外は、「子音」+X+「母音（拗音）」で打てる（Lの代用も可）。

よく使う外来音の、ローマ字入力対照表をしめす。

デフォルトで用意されているもの

ファ	ファイ	フェ	フォ	fa fi fe fo
ジャ	ジュ	ジェ	ジョ	ja ju je jo (zya zyu zye zyo 推奨)
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	va vi vu ve vo
ウィ	ウェ	ウオ	wi we uxo	※ woが「を」のため
ツア	tsa	ツイ	tsi	※ twa twi はトア、トイ



カタナ式独自に頻出音を設定したもの

テイ	tyi	txi	※	デフォ	thi も可。	デフォ	tyi=ちい	は削除。	tixi じ。	
デイ	d yi	d xi	※	デフォ	dhi も可。	デフォ	d yi=だ	い	は削除。	dixi じ。
トウ	txu		※	デフォ	twu も可。					
ドウ	dxu		※	デフォ	dwu も可。					
デュ	d yu		※	デフォ	d yu=ぢゅ	は削除。			dixyu じ。	
スイ	s yi	s xi	※	デフォ	swi も可。					
ズイ	zyi	zxi								

ショートカット系 NEW！

今バージョンの強化ポイントだ。

無変換・変換キー（現「英数」「かな」キー）を、コントロールキーにバインド。親指か

らショートカットを呼びだせるようにした。

また「ひらがなカタカナキー」を「再変換キー」にバインド。「再変換キー」は、変換後の文章にカーソルを合わせて押すと、文節を自動的に判断し、以下のような挙動を示す。

文中 その文節を再変換

文節頭 次の文節を再変換

文末 最後の文節を再変換

シフトで選択することなく、そのまま変換モードにもう一度入れるのだ（文節以上に再変換をかけたいときは、シフトで選択してから再変換。これは実際 Windows の「変換キー」のデフォルト機能なのだが、知られていなくて誰も使っていないだろう）。あとに述べる「文節単位の移動」と組み合わせれば、文節頭にカーソルを合わせるのは容易だ。ちよつと前の変換ミスや、かなを漢字にしたいときなどに活用されたい。また、「再変換」はあとに述べるコントロールショートカットキーの中にも入っている。

では、コントロールキー併用によるショートカット群を説明しよう。

ちなみに「Ctrl キーを押している間だけ QWERTY 配列に戻る」ように初期設定されている。Ctrl+S や Z など是指が覚えているだろうからだ。（以下、Ctrl+を C+表記で示す）

よく使うショートカット

C+Z アンドウ

C+X カット

C+C コピー

C+V ペースト

C+S 上書き保存

C+F 検索

C+A 全選択

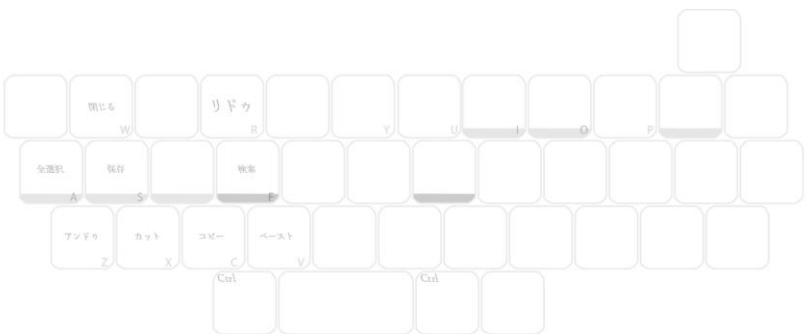
高度なショートカット

C+BS カーソルの前の文節を削除

C+Del カーソルの後の文節を削除

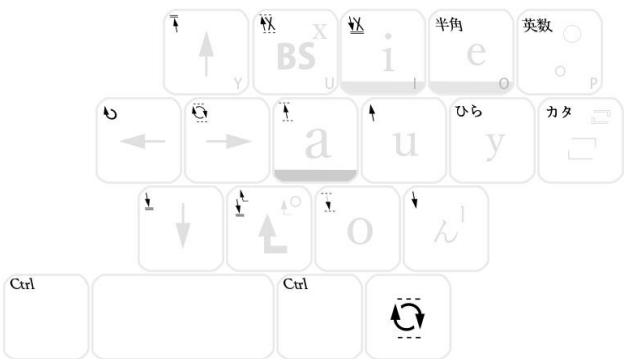
カタナ式の独自ショートカット

C+R リドゥ (本来のリドゥ C+Y が以下に使われる
為)



いよいよ今バージョンの目玉のひとつ、コントロールと組み合わせたショートカットによる簡易編集機能を見ていこう。特に右手と中央部に配置した。

Ctrl キーが親指で押せる場所にきたことで、親指を押したまま、次のような「編集モード」のキー使いが可能となる。左図のアイコンで点線は文節、二重線は行頭行末を示す。



C+

- A・O……………文節単位の上下移動
- U・第二「ん」…文字単位の上下移動
- ↑・↓……………行頭・行末へ (Home・End)
- ……………再変換
- ←……………アンドウ
- エンター……………確定して Endへ
- BS……………前の文節を削除
- I……………Endまで全削除

たとえば、誤変換に気づいたときや、再変換したいとき。コントロールを押しっぱなしのまま、「移動↓再変換↓エンターで確定かつ文末(最新部分)へ復帰」などはよく使うだろう。アンドウも可能なので、再変換もやり直せる。

また、漢字変換中(確定前)に限り、以下のショートカットを定義してある。

- E……………半角に (MS-IME の C+Oと同じ)
- 。……………英数に (MS-IME の C+Pと同じ)
- Y……………ひらがな (MS-IME の C+Uと同じ)
- 「」キー……………カタカナに (MS-IME の C+Iと同じ)

これは全て MS-IME のデフォルトショートカットだが、知らない人も多いのではなからうか。キーバインドが被るため、カタナ式ではキーを移動した。もしデフォルトのままのほうが良いという方は、以下を参考に。

※ DvorakJ の設定(4章)に戻り、キーボード／入力全般／修飾キー関連／「独自のショートカットキー」……オフに。

キーボード／入力全般／Sands など／【無変換】＋【文字】と【変換】＋【文字】……オフに。
無変換と変換を Ctrl キーとしてのみ使いたい方は、data/others/muhenkan_henkan 中の「Ctrl.txt」を選択すれば、コントロールキーとしてだけ使えるように。

※ なお、カタナ式を実装している DvorakJ には限界があつて、「無変換（または変換）を Ctrl 代わりに」と「スペースを Shift 代わりに (Sands)」を「同時には使えない」制限がある。

つまり、「無変換（変換）＋スペース」＝「Ctrl＋Shift」は残念ながら出来ない。

「無変換（変換）＋Shift」や「Ctrl＋スペース」なら可能。

（これを解消してくれる AutoHotkey 使う募集中…）

ここまで読んだ君は、カタナ式の全貌を理解した。あとは使いながら覚えてくれたまえ。

五十音の練習用に、俳優やアナウンサーの発音練習に使われていることで有名な、北原白秋「五十音」を引用する。なお漢字ひらがな表記は、練習しやすいように原文から改めた。これを打つことでカタナ式に慣れてほしい。

あめんぼ赤いな	あいうえお	浮き藻に子海老も泳いでる
柿の木栗の木	かきくけこ	きつつきこつこつ 枯れけやき
ささげに酔をかけ	さしすせそ	そのうお浅瀬で刺しました
立ちましょラッパで	たちつてと	トテトテタッタと飛び立った
なめくじのろのろ	なにぬねの	納戸にぬめって何ねばる
はとぼつぼほろほろ	はひふへほ	日なたのお部屋にや 笛を吹く
まいまいねじまき	なにぬねの	梅の実落ちても 見もしまい
焼き栗ゆで栗	やいゆえよ	山田に灯のつく 宵の家
雷鳥は寒かる	らりるれろ	蓮花が咲いたら 瑠璃の鳥
わいわいわっしょい	わいうえを	植木屋井戸換え お祭りだ

2 (解説) カタナ式の速さの秘密

カタナ式は速い。

作者はカタナ式を作って三か月で、ブラインドタッチをマスターし、三十年付き合ってきた QWERTY ローマ字の入力速度を超え、それより速かった手書き文字のスピード（考えながら書いたとき、日本語 2500 字/h）に追いついた。合理的スピードを追い求めて配置したので当然の結果ではあるが、その合理について解説しておきたい。

第一の理由は、左右交互打鍵の速さである。

一方の手の打鍵の合間に、他方の手が次に移動しているため、手が無駄に遊んでいる暇がほとんどない。慣れてくれば単語ごと手が覚えるので、一気にダラララッと左右交互打鍵で打つスピードが実感できると思う。手が休むのは、ことばや構成を考える時だけになる。

第二の理由は、主要キーが少ないこと（これはブラインドを覚える時にも有利な条件になる）による、アルペジオ打鍵の多発である。

右手部の二重母音、拗音はすぐに分かるだろう。O U…人差し指↓中指、Y O U…薬指↓人差し指↓中指、A I…人差し指↓中指、E I…薬指↓中指、「ん」「ー」…三指のどれか↓小指など、ほとんどの右手連続打鍵はアルペジオになる。

また、左手もアルペジオになる。子音は連続して二回出ないが、（ほぼ）一回おきに出る。それがアルペジオになっているので、子音の準備時間が少なくて済むのだ。同様に二重母音にならなくとも、母音のあとの母音がアルペジオになっていれば、速い。

つまり、カタナ式の速さの秘密は、音でいえばひとつ飛び、片手から見ればアルペジオになっているという確率が、非常に高いことだ。逆に、そうなるように子音を再配列したのだ。

作者が配列を調整する試し打ちに使っていた歌「Shadow of Love(A-JARD)」の一番（サビ前まで）で検証してみよう。

高層ビルの街角に 止まない雨を残して

ほら東から もう 夜明けだね

ツイードの古いコートの襟に顔を埋めながら

その濡れた髪 ただ震えてた

悲しみの Such a lonely face 青い影

君の背中今ここで 抱きしめたら崩れそう

俺たちの終らないロマンス

ちなみに日本語百万字の 2gram 統計資料（けいならべ配列作者より）から抽出した、子音の連携の頻度（上位23）データを示す。濁音は清音に含み、逆順も含むとすると、相對頻度は以下である。

K T	1 2	∖		S R	4	∖		T W	2	∖
K N	1 1			T R	4			N N	2	•
T S	6	∥		K K	3	•		N R	2	∖
T N	6			T H	3			S H	1	
M T	6	∖		N H	3	∥		S W	1	∖
K S	5			R R	2	•		T T	1	•
K R	5	∥		K W	2	∖		M R	1	∥
S N	5			S M	2	∖				

TN、SN、TH、SHをのぞく上位19の連携が、「隣へ動かす（または連打の）素早い打鍵」になっていることが分る。これがカタナ式の子音の連携の速さの秘密だ。

繋ぎのことばが速いことの検証

カタナ式の配列上の工夫により、次のような言葉を打つのに、カタナ式は速い（右手または左手が隣接移動またはアルペジオになっている為）。

する した するとき すれば したら せざるをえない
 そう こう ない から ある くる られる られた られない らない
 です でも ことが とか だが かし だから これだ それで ところ
 ところが ところで ながら ながらに それから すると あとで
 または まだ いまだ どうも もう むしろ のこり みてくれ くだい わりと
 それを しらない さま それは それが これは これが あの あれ
 あいだ あいまに だめ はるか したがって そして そうこう かなり
 らと てきに させる させられない つけられない まくり とくに
 わたし ぼく きみ なみだ なく かたる しつれい まとも ぎやくに ように
 らしい とする としたら ふいに なら なりに のう のる もの
 もちろん ほうほうろん こんかい じかい ぐらい こころのなかに

複雑な名詞や特別な言葉ではなく、これらの「よく出てくる」なんでもない言葉、いわば「繋ぎの言葉」が速いことで、カタナ式は「文章によらずスピードが出る」のである。

3 カタナ式の強さの秘密

NEW!

前バージョンまでのカタナ式は、速さを追求しすぎて「継続的に長く打つ」ことに配慮が足りなかったのは事実だ。実際作者は、調子に乗って沢山打ちすぎ腱鞘炎になってしまった。自分比で1.3倍の速さを、急に手に入れたことの代償といえる。

その後の研究で、腱鞘炎になりにくい打ち方が分って来たので、それを今回成果として取り込むことにした。

その思想は、今回の左右非対称なホームポジションに表れている。「自然なハの字」はキーボード全体の枠に対してではなく、キーの斜めずれの基準線を正面とすべきという考え方だ。熟練タイパーの間では、キーボードをやや左奥にしるとか、体の正面をキーボードから右にずらせとか、右手を左に傾けるとか言われることがあるらしいが、同じことを言っているわけだ。

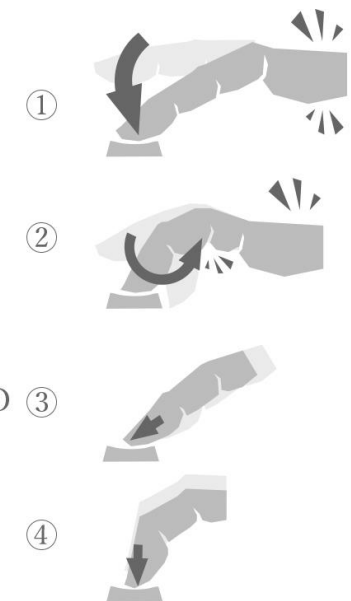
このホームを基準として、左手の配列と運指を見直したのが今回の配列改変の意図である。

キーの押し方で、腱鞘炎になりやすいものとなりにくいものがある。

指は、指先から手の甲、手首から上腕部、肘へいたる長い腱（と、指の腹、掌、手首内側から内側の肘にいたる裏側の腱）で動いている。これを「動かしすぎて」（頻度、距離）組織が傷つき、炎症を起こすのが腱鞘炎だ。ということとは、同じひとつのキーを押すのも、負担のかからない打ち方をすればいいことになる。

図を見ていただきたい。一番上が最も力を必要とする打ち方だ。長いものを動かすのに、

テコの内側から力をかけるからだ。



二番目は日本人の多くがやるという、「引き切り」である。日本刀や包丁などの切り方と似ている。円運動で引っかくようにキーを打つ。キーからの反力も小さく、一見力を合理的に使っているが、「一回ぶんの曲げのばし」をしていることに変わりなく、腱の負担は大きい。

三番目は「押し切り」で、外国人に多い打ち方である。長い棒のように構えた指を、槍のように突くだけであり、キーを底打ち

した反動で指を戻す。移動距離が少ない分腱の負担は小さい（もともと QWERTY キーボードは、この打ち方で打つように設計されているらしい）。大きく突っ込んで指先を痛めないように柔らかく突ければ、この打ち方がカタナ式では推奨で、そうしやすいように配列

を組んだ。

四番目は、鍵型にセットした指をキーの上に置き、そのまま下に降ろす打ち方だ。U F O キャッチャー的といえればいいだろうか。ホームポジションなど決まったキーは、この形に指を作っておくと打鍵も速いし、腱の負担も小さい。

打ち方の推奨は、指を鍵型にした四番で構え、三または四で打っていくことだ。その為に、左手の位置を正確に決めるとやりやすい。

左手は利き手でないため、器用さや握力において劣る。最も不器用なのは薬指だ。僕が腱鞘炎になったのも薬指からであった。したがって、左薬指の負担を小さくするのが理想の指使いということになる。

左薬指のホームはM。ここに四の形、鍵型の薬指を置き、出来れば上の「一」も四か三で打てるように手首の位置を決めること。多くのキーボードでは指が届かないので、パームレスト（リストレストとも言う）を使って手首を浮かせ、正しい位置に薬指が来るよう左手首の位置を決められたい。このときキーは左に傾いて並んでいるから、キーの位置よりも左手首はやや右になるはずだ。今回の変則的なホームポジションは、それを意識しているのである。

三や四のイメージを持つには、五月の新しく水を張った田んぼに、裸足の指をぬるつと突っ込むような気持ちいい感じを思い出すとよい。

バージョン5「裸足の絡み」は、改変された子音部を示すと同時に、裸足が泥にぬつと入るイメージを意味している。

また、左親指をNと↓の間より左を打つようにすると、薬指の安定が保たれる。「+確定」を打つ時や濁音時、親指が右に流れがちだ（この時手首が外旋してしまい、外側の指ほど寝てしまい負荷が大きくなる）。意識してスペースの左サイドを打つと、四指が鍵盤面に対して垂直の構えをキープできる。コツとして記憶しておいてほしい。

速く打つことと長く打つことは、両立できる。カタナ式はそれを目指す。

4 カタナ式のダウンロード及び初期設定

これまでのバージョンと初期設定がやや異なるため、旧バージョンの方も再設定を。

手順（手動設定なので、予想所要時間30分程度）

- 1 DvorakJをダウンロード
- 2 カタナ式の設定ファイル本体、ショートカット設定をダウンロード ↑NEW！
- 3 DvorakJの設定 ↑NEW！
- 4 MS-IMEの設定 ↑NEW！

- 1 DvorakJをダウンロード

blechmusik.xii.jp/dvorakjからダウンロード。

DvorakJはレジストリをいじらずにキー配列が変更できる、Windows用のフリーウェアで、フォルダごとUSBにコピーして持ち歩けば共用パソコンでも使える便利ソフト。起動はダブルクリックまたはオートで、共用パソコンならフォルダごと削除すれば元通り。デスクトップかcドライブの中にフォルダを置く（設定が終わったらフォルダごとUSBにコピーしよう）。dvorakj.exeをダブルクリックすると立ち上がり、設定画面を兼ねる。次のカタナ式設定ファイルをダウンロードしてから設定へ進もう。

- 2 カタナ式の設定ファイル本体、ショートカット設定をダウンロード ↑NEW！

oookawoks.seesananet/article/447064175.html

ブログ「大岡俊彦の作品置き場」／カタナ式から、以下のものをダウンロード。

カタナ式v5裸足の絡み.txt
カタナ式v5ショートカット.txt
カタナ式v5変換無変換ショートカット.txt
てんぐ探偵人物表.txt （これは人物表のテンプレなので、自由に書き換えてOK）

これらをDvorakJのuserフォルダ内に置き、以下の設定を行う。

3 DvorakJ の設定 ↑NEW！

一度設定すれば、毎回同設定で起動する仕組みだ。また、以後設定をいじるときはここを参考にされたい。

キーボード

入力全般

Sands なご

「Sands: [Space] に [Shift] の機能も担わせる」……オン
[無変換] + [文字] と [変換] + [文字] …………… オン

かつ、その設定ファイルを `user` の中から「カタナ式 v5 変換無変換ショートカット.txt」に選ぶ

日本語入力……10 ミリ秒

キーを発行させるのに遅延する時間……10 ミリ秒

（お使いのパソコン、アプリの速度、打ち手の素早さなどでも変わるので、色々変えてみて下さい。DvorakJ を再起動するときの設定になります）

I M E 関連 「I M E の状態の変更（直接入力と日本語入力の切り替え）」

……全部オフ

修飾キー関連

「修飾キーを押して下げている場合に QWERTY 配列を使用する」
`Ctrl Alt Win`……全部オン

「独自のショートカットキー」…………… オン

かつ、その設定ファイルを `user` の中から「カタナ式 v5 ショートカット.txt」に選ぶ

直接入力 （とくになし。Dvorak や Colemak にしたい人はデフォルトにある）

日本語入力 設定ファイル……`user` の中から「カタナ式 v5 裸足の絡み.txt」を選ぶ

「日本語入力の設定／日本語入力配列を日本語入力時にのみ使用する」……オン

「[Shift]+[文字]のとき／未設定のときには何も発行しない」……オン

単一キー

[Esc] なご

[Caps Lock] 直接入力時 …… 「日本語入力にする」

日本語入力時 …… 「直接入力にする」

[無変換] なご

[無変換] 直接入力時 …… 「直接入力にする」

日本語入力時……「直接入力にする」
[変換] 直接入力時 ……「日本語入力にする」

日本語入力時……「日本語入力にする」

ファンクションキー 「独自のファンクションキー」……オン

userの中から「てんぐ探偵人物表:tx」を選ぶ。

これは自由に書き換えて使ってよい。

たとえば、作品ごとに登場人物表や固有名詞表をつくっておき、執筆の都度切り替えて使うなどすれば、長編を書くときに楽だ。

その他

起動時の設定 ログオン時に Dvorakj を起動する……オン

Dvorakj 起動時に設定画面を最小化する……オン

ホットキー Dvorakj 用のホットキーを有効にする……オン

実行を停止する C_ (全て半角。大文字 C、ハイフン、

アンダースコア)

実行を再開する C_ (同、半角ニヨロ)

4 MS-IME の設定 ↑NEW↑

日本語変換に ATOK や Google 日本語入力を使っている人もいるかも知れないが、ほとんどの人はデフォルトの MS-IME を使っているだろう。この設定とカタナ式のショートカットがバッティングするところがあるため、これをカタナ式に合わせておく。

右下タスクバー内の IME のアイコン右クリック→プロパティ→詳細設定→全般→編集操作・キー設定：変更→Ctrl+BackSpace の最初の項目（入力／変換済み文字なし）をクリック→「確定取消」を「_」に変更

（デフォルトでは、C+BS は、「打ったばかりの文字の直後なら再変換、それ以外なら文節削除」というややこしい設定になっている。それを、「常に文節削除」にするための設定変更である。このデフォルトがいいと思ったらこの設定変更は不要）

以上の設定が終わったら、カタナ式を使うことが可能になる。いろいろと試しながら、覚えて行つてほしい。

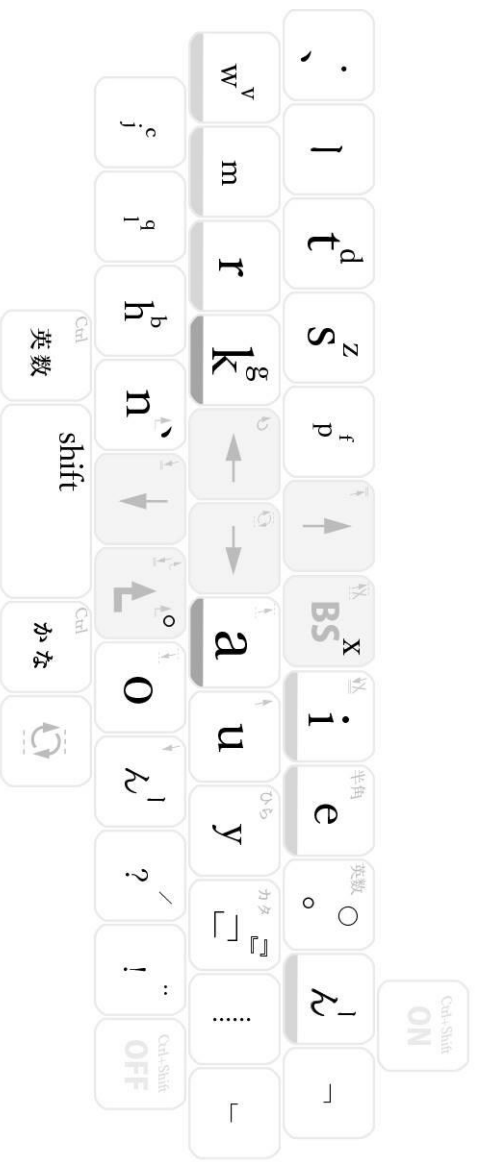
なお、このフォルダを USB にコピーして持ち歩けば、任意のパソコン上にこの設定ごとを持ち運べる。デスクトップなどにコピーして、ダブルクリックでカタナ式 (Dvorakj) を立ち上げればよい。終了はメニューから、削除はゴミ箱に捨てれば OK だ。

おわりに

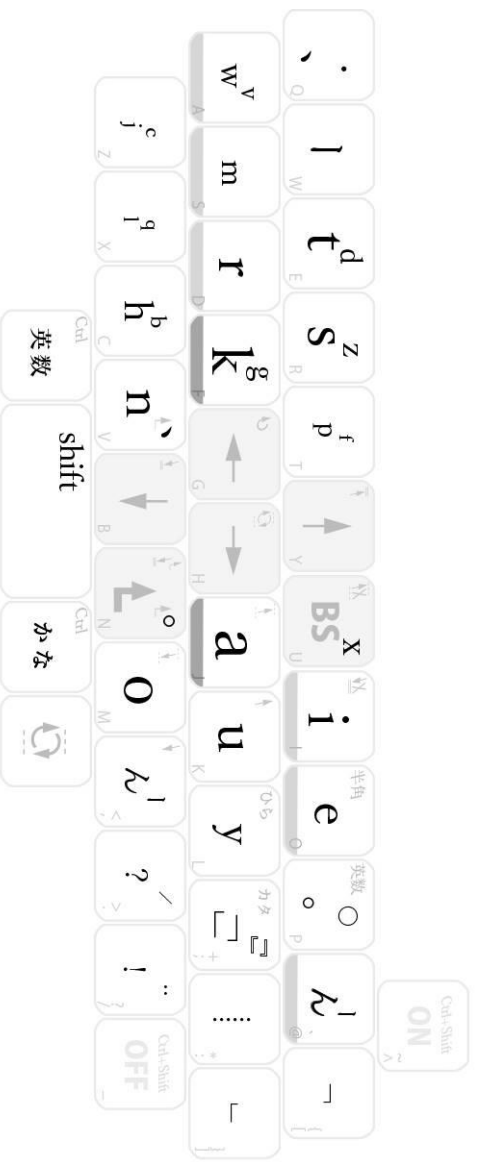
今回のバージョン名は、「裸足の絡み」という、エロティックな名前だ。物語は一人では成立しない。必ず相手役がいる。同性なら敵になるし、異性ならエロティックになる（同性のエロティックを書いている人もいるかもだが）。相手とどう切り結ぶか、それが物語である。さらに今回変更箇所を意味し、かつ押し切りのイメージと、三重に意味をこめた。

「裸足の絡み」と、是非カタナ式で打ってみて欲しい。左下から時計周りで左手が一周し、外へ流れる美しいアルペジオ運指で出来ている。これが苦もなく押し切りで打てれば、腱鞘炎は減り、なおかつ速さの理屈が分る仕組みになっている。

それでは、よい執筆を。



物語を書くための配列
カタナ式 作 大園 俊彦
バージョン 5 裸足の絡み



物語を書くための配列
カタナ式 作 大園 俊彦
バージョン 5 裸足の絡み

(図を拡大縮小コピーして、壁に貼ったり、キーボードに直接切り貼りして覚えてね！)